

原爆の子 (1952)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 100分

初公開日 1952/08/06

公開情報 北星

【解説】

長田新により編まれた作文集『原爆の子ー広島の子のうた』を元に、新藤兼人が脚本・監督を担当した作品。被爆から七年後に製作された本作は、原爆を取り上げた最初の日本映画と言われる。

広島の子で働いていて被爆した石川孝子は、瀬戸内海の小さな島で教員をしていた。原爆投下から七年後の夏、孝子は広島を訪ね、かつて石川家の使用人だった岩吉と再会する。岩吉は被爆し失明、浮浪者同然の生活をしてきた。孝子は幼稚園の同僚の夏江から園児たちの住所を聞き、子供たちを訪問して行った。生き残った三人の教え子たちはみな中学生になっていた。三平は原爆症で父を亡くし、敏子は原爆症で病床に臥せ、そして平太は両親を亡くし兄弟と暮らしていた。

【クレジット】

監督 新藤兼人

製作 吉村公三郎

山田典吾

脚本 新藤兼人

撮影 伊藤武夫

美術 丸茂孝

音楽 伊福部昭

出演 乙羽信子

滝沢修

宇野重吉

山内明

清水将夫

細川ちか子

北林谷栄

多々良純

東野英治郎